

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990600132		
法人名	社会福祉法人 昂希会		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	栃木県日光市塩野室町1504－26		
自己評価作成日	平成28年10月14日	評価結果市町村受理日	平成29年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	平成28年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔で穏やかに毎日を過ごせるよう、一人一人に寄り添い耳を傾け、思いを汲み取れるように支援しております。 外出や季節を感じる行事毎にも力を入れ、地域の方々との交流にも努めています。 また、隣接している特養の行事にも参加させて頂き連携を深めており、当ホームでの生活がゆったりと流れ、沢山の笑顔の中で過ごせる様取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな田畑や住宅地に囲まれた環境の中に位置している。同一法人の運営する介護老人福祉施設やグループホーム、小規模多機能施設があり災害時の連携等も可能な開所3年目の事業所である。事業所では利用者に対する接遇面に力を入れており、あなたの「あふれる笑顔と想いに寄り添います」という理念のもと、職員の笑顔で利用者の笑顔を引き出すことを心がけている。職員は心の声ノートを活用し利用者のささいなつづきから想いを汲み取る支援をしている。職員から事業所内の清掃について提案があり、清掃の項目ごとのチェックリストを作成し、事業所内の環境整備と職員の意識の向上を図るなど、チームワークのよさ良さで課題の改善を行っている。年に1度、家族会を開催し、食事をしながら家族間の交流を行っている。音楽療法を開催したり、地域の行事に参加したり、今後はどんど焼きの参加も検討するなど、地域との交流も積極的に行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所前にスタッフ同士で作成した理念を、玄関に掲げている。今年度の目標も同様に作成し掲示している。スタッフ同士が目標を確認し実践出来る様に努めている。	玄関に職員による手書きの理念と具体的な毎月の目標を掲示している。毎月のカンファレンスと年2回の管理者との個人面談の際に職員全員が理念を確認している。法人として自己評価と他己評価も実施し支援サービス等に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の花いっぱい事業に参加したり、塩野室児童館と交流を深めたりしている。又、近隣の方の敷地内まで散歩コースにさせて頂いたりもしている。	自治会に加入し、児童館の運動会やハロウィンに参加して地域との交流を図っている。児童館の園児の訪問や地域の方の傾聴ボランティア、楽器演奏・歌・パズル等を楽しむ行事での訪問もあり、地域との積極的な交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	週に2、3回の買い物では小林直売所へ一緒に出掛けている。地域の方々との交流を図りながら、馴染みの関係を築いている。交流を通して認知症の方への理解や、支援方法を伝え活かしてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において入居者の生活の様子やサービス内容の状況説明、報告と同時に参加者からも質問や意見を聞いている。頂いた情報を元に、傾聴ボランティアの方に月に1回来て頂く様になった。	家族代表・児童館職員・市担当者・法人評議員の参加のもと、同法人の事業所と合同で2ヵ月に1回開催している。議題に応じ消防署等の参加もある。参加者からはボランティア訪問の提案がありサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問や不明な点は直ぐに市町村に連絡をし情報を頂く様努めている。	運営推進会議の参加時に利用者の事業所での暮らしぶりを把握してもらっている。日頃から市役所に出向いたり、電話での情報交換や、制度上の相談をするなど、市との連携と情報の共有に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隣接する特養、同法人のGHと合同で身体拘束・虐待の委員会を定期的に開催している。身体拘束に関するアンケートや事例検討会を行っており、身体拘束への正しい知識を得られる様に取り組んでいる。	法人全体で身体拘束・虐待に関する委員会に参加している。職員のアンケート等も参考に事業所内の個別の事例検討会を開催し、具体的に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中、玄関の施錠はせず、鈴の音が鳴る工夫と見守りにより対応し、利用者の安全に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常のケアの中で絶対に虐待が行われない様、スタッフ同士で注意を払い防止に努めている。虐待に関してのアンケートや勉強会を行い、理解を深めている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門的知識について学ぶ場を設けられる様、外部研修等の学習も考えていきたいが、今のところ参加出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族の立場にたち、丁寧に説明を行い納得された上で契約を行っている。改定などがある場合も十分な説明を行い、同意書にサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や電話の際に意見や要望を聞いている。職員が作成した家族アンケートへの記入を依頼し、意見や要望を伺っている。	家族に対してアンケートを行ったり、家族の訪問時や家族会で職員が積極的に話しかけ意見を聴いている。敷地内の水溜りの改善など、家族からだされた要望について、法人内で協議し、サービスの質の確保に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士が日常的にコミュニケーションを図れる様、連絡ノートを活用したり、毎月のカンファレンス時に提案や意見交換を行っている。又、管理者は年2回の個別面談を行っている。	職員は連絡ノートや利用者のつぶやきを記録した「心の声ノート」を活用し、日々の提案や話し合いの場を持っている。管理者は年2回の個人面談で職員の意見等を聞いている。薬の量や時間帯の調整など、職員の気付きや意見を運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給や希望休の取得がしやすい様努めている。 又、職員が働きやすい環境作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の報告書を全職員で閲覧したり、資格取得の為の研修等、参加しやすい様勤務表を配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に入会し、研修等に参加している。同系列GHと交流の場を設けたり、他GHとの情報交換の機会等を作ったりしている。		

グループホームひだまり

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や調査の際に必ず本人と面談し、不安や困っている事、入居してからの生活の希望等も確認し、安心した生活が送れる様努めている。又、サービス事業者からも情報を得て本人の事を良く理解できる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	玄関にご意見箱を設置すると共に、家族アンケートをとり不安な事や要望を聞ける様にしている。相談受け付けや調査の際は、必ず家族と面談を行い、不安や困っている事等を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の希望や意向を踏まえ、GHでのサービスの内容を説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物や調理等、一緒に行動している。時には入居者の住んでいた方面に出掛ける等して、同じ時間を過ごし共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会をはじめとする行事や通院など、家族と関わる機会を持ち、本人と家族の絆を大切にしている。又、家族の面会や電話の際に本人の様子を報告したり本人の思いや困りごとがあれば家族と一緒に支えられる様支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけだったお店や美容室、お墓参り等馴染みの人や場所との関係が途切れない様、外出支援に努めている。面会時間も一応の決まりはあるが、面会者の都合に合わせられる様努めている。	馴染みの理容師に依頼し事業所に訪問してもらったり、墓参りや行きつけの店など人や場所との関係が継続できるように支援している。家族の面会時間は朝8時から夜7時頃までとしているが、状況に合わせて対応し、気軽に立ち寄れる雰囲気作りに配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を把握し、座席の工夫をしている。他者との関わりが苦手や困難な入居者については、職員が多く関わりを持ち孤立しない様支援している。レクリエーション等全員で楽しんだり、皆で笑って過ごせる時間を作る様に努めている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居になっても時折面会に行ったりして、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人や家族の希望・意向の把握に努めている。困難な場合は本人に寄り添い、表情や仕草等から意思を汲み取れる様努めている。	利用者のなにげない一言を「心の声ノート」に記入し言葉の奥にある思いを汲み取り、職員間で共有しケアに役立てている。嬉しいと思うことや嫌なことを表情や態度から察知し、注意深く観察し思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境等は、日々本人から伺っている。事前の調査の際、家族からも確認しており安心して生活が送れる様に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身の状況、暮らし方や生活リズムを把握し、出来る事と出来ない事を見極められるようにしている。又、本人の趣味や行いたい事の把握にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の担当職員を決めており、定期的なモニタリングを行っている。より良く暮らすための課題、ケアの在り方等を全職員でカンファレンスにて話し合っている。	利用者や家族のニーズを確認した上で職員の気付きや医療機関の意見も反映し介護計画書を作成している。見直しは状態に変化が生じた場合は随時行い、毎月のモニタリングで援助目標の達成度を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に残したり、その際発した言葉や会話から垣間見た気付き等も記録に残す様努めている。又、申し送りノートを活用して共通理解を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況によっては、通院介助の支援も行っている。又、本人の希望に対して日用品の買い物や外食支援にも努めている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当ホームで実施している音楽サークルに地域の方々にも声を掛け、一緒に楽しい時間を設けられる様、計らいを持ってはみたが現在までに参加者はいない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が疾患している状態、特変等を家族や医師に正確に伝達出来る様努めている。又、毎月協力医の往診があり、何かあったらすぐに指示を仰ぎ受診の指示があればクリニックに出向いたりしている。	かかりつけ医の受診は家族に依頼し、協力医への付き添いは職員が行っている。受診内容や処方箋の情報を家族と共有し、主治医と連携を図りながら支援している。協力医による訪問診察を受けている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調や健康の維持に十分な注意を払うと共に、体調変化の際は現場の職員、上司に報告し看護師から指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は独自のサマリーを作成し、情報として提出している。退院された時も安心かつ、完治に向けて生活出来る様環境作りに努めている。病院関係者にも相談、助言に努め良い関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護について基本の考え方や介護職としての在り方、実際の実践について定期的に機会を設け、職員同士で知識を深めている。事業所で対応出来るケアの有無なども話し合う場を作っている。	看取り介護勉強会を3カ月に1回開催し、重度化に伴う支援方法について理解を深めている。これまで看取りの経験はなく、重度化した場合、病院や介護老人福祉施設への住み替えを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習やAEDの使用等、外部からの講習に参加している。事故発生時には、独断で動かず周囲の職員や上司に報告し、迅速な対応を心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内では入居者の安全を確保するとともに避難経路を把握している。消防訓練を年2回実施し夜間想定訓練も行っている。又、緊急連絡網の重要性を認識し、連絡網を活用した訓練も実施しており、連絡網には地域の方やご家族も入っている。	家族や地域の方も参加し、年2回消防署指導のもと、昼夜を想定した避難訓練を実施している。災害時の緊急連絡網にも家族や地域の方を入れて、地域との協力体制を築いている。備蓄は食料、飲料水のほかカイロやひざ掛けなど防寒用品も備えている。	法人の連携により災害対策に取り組む、地域の協力体制も充実してきているが、今後は災害時の利用者の避難場所での見守り等に関する具体的な内容の検討を期待したい。

グループホームひだまり

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のプライバシーを損ねない様に、排泄や入浴の際は、さりげなくそっと耳元で声掛けを行う様、全職員で心掛けている。	利用者に対してわかりやすい言葉でさりげなく声かけし、誇りやプライバシーに配慮した支援に努めている。更衣等は利用者の居室で行っている。個人情報に記載された書類は事務所内に適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から本人の希望や想いを見いだせる様、常に耳を傾けている。又、職員間で共有出来る様に「心の声ノート」を活用している。自己決定の難しい方に対しては、本人の仕草や表情をみて対応出来る様心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングで自ら塗り絵をしたりパズルをする方、新聞や雑誌を読まれる方、自室でTVを御覧になられる方、休まれる方等、ご自分のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時には好みの服を選んで着て頂いている。家族と馴染みの美容室に行かれる方やボランティアによる理美容サービスを利用し自分の好みにカットして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が旬の食材を取り入れた献立を作成し、入居者と一緒に買い物に行ったり、作ったりしている。季節を感じられる食事、行事に合った食事等工夫している。又、後片付けも一緒に行っている。	同法人の栄養士のアドバイスにより、畑の作物も活用して献立を立てている。利用者の多くが食事の下ごしらえや盛り付けなどを職員と一緒にしている。同じテーブルで利用者と職員が会話をしながら和やかに食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人に合った適量、バランスの良い食事が摂れる様工夫している。水分量も常にチェックし、足りない方には本人の好きな物を提供したりと随時声掛けを行っている。又、ご飯は本人の目の前で量を確認しながらよそっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし口腔ケアを行っている。自分で行えない方には介助に入っている。週3回義歯洗浄剤を使用し、清潔の保持を心がけている。又、必要があれば家族に歯科受診の依頼を行っている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は排泄パターンを把握し、プライバシーに十分配慮した声掛けを行い誘導している。汚物をトートバックに入れる等の配慮もし、さりげなく片付けをするとともにリハビリパンツやパットを使用する等自立に向けた支援を行っている。	排泄記録を踏まえ、生活リズムに沿ったトイレ誘導や声かけにより、利用者の自尊心に配慮した排泄支援を行い、オムツ使用者を減らすことに努めている。現在、日中は全員トイレ介助を行い、オムツ使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促せる様に毎朝体操を行ったり、水分ゼリーや乳製品、果物、野菜を提供している。又、必要に応じて下剤の内服も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上入浴して頂ける様支援している。リラックスして入浴出来る様、音楽をかけたり、本人の希望により入浴剤を使用している。又、本人のペースで洗身・洗髪を行い、声量に配慮した声掛けを行っている。	利用者の希望を確認しながら週2～3回を目安に1対1の介助で入浴している。入浴中は音楽を流し、季節の入浴剤やゆず湯などを使用してリラックスできるようにしている。拒否傾向のある方には声掛けや時間帯を変えるなど工夫し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度設定に注意し、冬場は乾燥を防ぐべく加湿器を導入している。起床時や日中など、シーツのしわを直したり、布団をたたんでおく等環境も整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を服用する際は本人が飲みやすい様に工夫したり伺ったりしている。空袋もダブルチェックし内服ミスが無い様に努めている。内服薬に変更があった際は、その後の様子を観察し職員間で連絡しあったり記録に残すなどし情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活にメリハリをつけるべく、洗濯物たたみや調理、掃除などを一緒に行っている。又、日常が単調に過ごしてしまわない様にレクリエーションや体操等、全員に声を掛け働きかける様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎の行事、買い物やドライブに出掛けただけでなく、屋外で昼食をとったり気分転換が図れる様支援している。日々の会話から行きたい所や希望を把握し可能な限り出掛けられる様努めている。	日常的には近くのコンビニエンスストアへ買い物に出かけたり、法人内敷地や、恵比寿様を散歩するなど、出来るだけ戸外に出る機会を作っている。外食やりんご狩り、紅葉狩り等、季節ごとの行事、ドライブなどの外出も毎月1回取り入れ、利用者の楽しみとなっている。	

グループホームひだまり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームで預り金としてお小遣いを預かっており、外出や買い物にて使用している。本人がお金を持つことの大切さを理解しており、近くのコンビニに行き1人1人支払いを行ったり、買い物時に支払いをしてもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて随時電話が出来る様に支援をしている。手紙を希望される方はいないが、御家族や親戚の方、知人等から手紙が届くことはある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材を所々に使用し、落ち着ける色彩に配慮しており、空調等にも注意を払っている。リビングには入居者が作った貼り絵や、四季を感じ取れる物を飾ったり置いたりして和やかな雰囲気を作っている。	広々とした共用空間は木材を多用し、隅々まで清掃が行き届き、室温も適度に管理している。広いベランダは利用者の日向ぼっこ等の憩いの場所となっている。壁には利用者の手作りのちぎり絵を飾り、季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごされる時には無理に声を掛けず自由にして頂いている。玄関前の庭先にはテーブルやベンチ等を置き、他者と話をしたり外の景色を眺められる様にしている。又、廊下にソファを置き一人でも過ごせる様な配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具や家電品を持ち込んで頂いている。自分で作った作品やお孫さんとの写真等を飾ったりされる入居者もあり、居心地良く過ごせる様工夫している。	ベッド・寝具・掛け時計・加湿器・洗面台・カーテンが備え付けで、テレビや衣装ケースなど使い慣れた家具を持ち込むことができる。利用者の手工芸品や家族写真などを飾り、居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札をつけたり、居室それぞれのカーテンの色を変え認識しやすい様工夫をしている。トイレやリビング周りの洗面台には、手の届く所にペーパータオルを置き自立して行える様工夫している。		